資料２－Ａ

共生・地域づくり分科会の議論のまとめ

今後の地域づくりのあり方

■共生の視点に立った地域づくりをきめ細やかに進める

■市民の主体的な地域づくりを広げる

■市民と行政の協働の仕組みづくりを地域で実践する

取り組みの課題

■地域住民が相互につながりを広げ，深めるための取組の促進

■地域の中で子育てと子どもの育ちを支える仕組みづくり

■高齢者，障がい者が地域との関りを保ちながら安心して暮らせる環境づくり

■生涯を通じた市民の健康づくりの支援

重点的な取り組み

住民の交流・活動の拠点づくり

●地域住民の活動・交流の拠点となる居場所（たまり場）づくり
●障がい者等が地域で住民とふれあい、様々な活動に参加できる場づくり

身近な情報提供・相談機能の充実

●子育て家庭と子育て情報を身近なところで結ぶ仕組みづくり
●障がい者等への情報提供・相談支援機能の強化
●地域住民の健康づくりを支える情報提供・相談の充実

様々な活動や主体をつなぐ仕組みづくり

●地域活動や市民活動をコーディネートする人材の確保・養成、
●地域活動や市民活動を支援する専門家や行政機関のネットワークの強化

連携と総合化によるケア機能の強化

●地域における保育機能の質の充実
●高齢者・障がい者の多様な生活ニーズやケアニーズに応じた良質な住宅づくり
●高齢者・障がい者・乳幼児などを対象とした，総合的な地域ケアの仕組みの検討
●子どもたちの，健康や性の問題に関する意識を高める取組の強化

取り組みに必要な視点

市民と行政との協働

●市民による先進的な活動を支え，広げていく

●取組の進め方の検討・評価を市民が中心となって進めていく

●地域住民が自ら公共施設の管理運営に取り組んでいく

●地域の様々な資源（人材、企業、ＮＰＯ、施設など）を公共的活動に結びつけていく

●市民活動団体、コミュニティ組織が自ら情報を発信し、活動への参加や支援を広げていく

●ＩＴの活用により情報ネットワーク機能を高めていく

●様々な市民活動団体とコミュニティ組織との連携・協力を強めていく

●教育における，家庭・地域・学校・専門家の連携を高めていく